

その計画は、なぜ遅れるのか

年 組 番 名前 _____

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 主な学年のめやす: 高1後半～高2

この紙のゴール: 300～450語の初見の論説文を、段落の働きを追いながら読み、要点を自分のことばで書く / 目安15分(本文+設問)。本文はこの教材のための書き下ろし(初見用)です。

[1] You said the report would take two hours. It took five. The gap was not small. It was more than double. You were not being dishonest, and you were not being lazy. You have probably said something similar before, about a different piece of work, and been wrong in the same direction.

[2] Making a plan is still the right thing to do. A rough plan tells you when to start, and starting is most of the battle. Starting late is the expensive mistake. People who make no plan at all do not finish earlier; they finish later, and they worry the whole way. So this is not an argument against planning.

[3] The trouble is where the number comes from. When you guess, you imagine the work going well. The picture in your head is a picture of a good day. You picture yourself sitting down, opening the file, and writing. You do not picture the printer failing, or the missing page, or the message that pulls you away for twenty minutes.

[4] Those interruptions are not unusual. Something like them happens almost every time. You remember the report. You do not remember the printer. They feel unusual because each one is different, so none of them is the thing you expected, and you do not add them up.

[5] That is not a criticism of you. The fix is not to try harder at guessing. It is to stop guessing. Look at how long the last three reports actually took you, and use that number instead. Your memory of the work is optimistic. Your record of it is not.

[6] So write down the finish time for one task this week. Just the time, nothing else. One line a day is enough. In a month you will have something better than confidence. You will have data about yourself.

〔語注〕 dishonest=うそをついている interruption=じゃま・中断 optimistic=楽観的な record=記録

本文には自由に書き込んでください。つなぎの語(But / Yet / however)に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問1がそのまま解けます。

その計画は、なぜ遅れるのか 設問

年 組 番 名前 _____

本文（1枚目）を見ながら答えてください。

大問1 段落の働き それぞれの段落が、この文章の中でどんな働きをしているかを選ぼう。

(1) [2]段落の働きとして、いちばん合うものは？ **思考・判断・表現** 答え () 3点

- ア [1]段落の具体例を、くわしく挙げている
- イ 筆者の主張を、はじめて言い切っている
- ウ 反対の立場にも言い分があることを、いったん認めている
- エ 読者にしてほしいことを、提案している

(2) 筆者が「でも、そうではない」と切り返しはじめるのは、どの段落の最初の文？ **思考・判断・表現** 答え 3点
()

- ア [2]段落
- イ [3]段落
- ウ [4]段落
- エ [5]段落

大問2 内容の読み取り 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) 計画を立てない人について、本文が述べていることは？ **知識・技能** 答え () 3点

- ア 早く終わることが多い
- イ 早くも遅くもならない
- ウ 終わるのがおそくなり、しかもずっと心配している
- エ 取りかかる時間が決まっていて助かる

(2) 時間を見積もるとき、人は何を思いうかべていると本文は述べているか。 **知識・技能** 答え () 3点

- ア うまく進んでいるところ
- イ 前回かかった時間
- ウ だれかに手伝ってもらうところ
- エ 終わったあとの予定

(3) じゃまが「めずらしく感じられる」のはなぜか。 **思考・判断・表現** 答え () 3点

- ア じつはめったに起こらないから
- イ 毎回ちがう形で起こり、合計して数えないから
- ウ 自分のせいではないから
- エ 起こる時間が決まっているから

大問3 書いて答える 本文をもとに、日本語で書こう。

(1) 筆者は見積もりの代わりに何を使えと述べているか。20字以内で書きなさい。 **思考・判断・表現** 5点

その計画は、なぜ遅れるのか（基礎） | 解答と採点

解答 選択問題

大問1 段落の働き		
(1)	ウ	Making a plan is still the right thing to do / this is not an argument against planning で、計画そのものは認めている。エは[6]段落。
(2)	イ	The trouble is where the number comes from. が転換点。
大問2 内容の読み取り		
(1)	ウ	[2]段落 they finish later, and they worry the whole way。
(2)	ア	[3]段落 you imagine the work going well。
(3)	イ	[4]段落 each one is different ... you do not add them up。アは同じ段落の冒頭と食いちがう。

記述の採点 模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問3(1) 筆者は見積りの代わりに何を使えと述べているか。20字以内で書きなさい。5点

前に実際にかかった時間。

配点	その点を与える条件
3点	「実際にかかった時間」にあたる内容がある
2点	「前回・これまでの」という過去の記録であることに触れている

「もっとよく考えて見積もる」と書いた答案は0点。[5]の The fix is not to try harder at guessing. で明確に否定されている。



その計画は、なぜ遅れるのか（基礎） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

見積りが甘くなる理由を扱った論説で、解決が「気合い」ではなく「手順」に着地するのが芯です。譲歩[2]で「計画を立てること自体は正しい」と認めているため、「計画は意味がない」と読んだ生徒は要約で崩れます。提案[6]が「前回かかった時間を見る」という検証可能な行動なので、読んだあとに実際に自分の課題で試させると、英語の授業がそのまま学習方法の指導になります。定期テストに移すときは、大問1を思考・判断・表現、大問2を知識・技能に割ると観点が割れます。

型	観点	テストでの使い方
段落の働き	思考・判断・表現	論の展開の読解。計画の否定と見積りの指摘を読み分ける
転換点の特定	思考・判断・表現	譲歩から主張への折り返しを1文で指させるか
内容一致／下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は選択、発展は和訳。比較と否定の範囲の精度
内容説明（記述）	思考・判断・表現	「記憶ではなく記録」という対比を書けるか
要約（20語）	思考・判断・表現	発展版のみ。譲歩・主張・結びの3要素で採点する

大問1は3版とも同じ問いです（段落が論の中でどう働いているか）。内容が取れているかではなく、論の運びが見えているかを測ります。

3つの版の使い分け

同じ英文の骨格（段落構成・論の運び）を保ったまま、語数・語彙・答え方を上げてあります（基礎300語=選んで答える＋日本語20字／標準380語=選択肢が英語＋日本語40字×2／発展450語=下線部和訳2・内容説明80字・英語20語要約の全問記述）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と学期をまたいで同じ英文に戻る—の3通りが使えます。③は「同じ話がどこまで読めるようになったか」を生徒自身が測れるので、学期末・学年末の振り返りに向きます。なお大問2以降は正解の記号を版ごとにずらしてあります（配り分けのときの写し合い対策）。大問1だけは3版とも同じ問い・同じ記号です—ここは測る力をそろえるための共通の骨格なので、あえて変えていません。